

テーマ：子供の体験活動 対象：地域住民, 小学生 主催：府中市立国府小学校運営協議会（K ネット）

8-⑤国府演 JOY 祭

（国府小学校運営協議会（K ネット）との連携を通じた公民館の取組）

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日 程	場 所	学 習 ・ 活 動 内 容
令和元年 6月19日（水） 11:00～11:30	国府小学校 6年教室	①「国府演 JOY 祭」で地域とつながろう（総合的な学習の時間） ・公民館職員がゲストティーチャーとして6年生の学校の授業に参加し、事業の経緯、目的、地域の思い等を説明
6月26日（水） 18:30～19:30	国府小学校 図工教室	②第1回イベント部会（6年生の代表児童も参加） ・活動の方向性について、意見交流
9月24日（火） 15:30～17:00	国府小学校 図工教室	③第2回イベント部会（6年生の代表児童も参加） ・企画案の検討
10月15日（火） 15:00～16:00	国府小学校 えんホール	④第3回イベント部会（6年生の代表児童も参加） ・企画案のプレゼンテーション、プログラムの検討
11月16日（土） 8:45～15:40	国府小学校 体育館・中庭・校舎	⑤「国府演 JOY 祭」（当日） ・「老若男女でつながり・ふれあう」をテーマに、児童の企画を中心として、音楽発表や様々なブース・コーナーを開設 ・約1,600名の保護者、地域住民、児童、教職員が参加 ・公民館は、イベントの総合的な運営・支援

- 公民館が小学校の実施する事業「国府演 JOY 祭」に対して人的・組織的支援を行うことにより、地域課題を児童や地域住民へ共有し、意識の醸成を図っている。
- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度の一環として、子供から高齢者まで幅広く集い、交流する場となっており、子供と地域住民が一緒にイベントを企画・運営し、公民館・学校・住民の3者が一体となった取組が図られている。
- 国府小学校運営協議会（K ネット）には、公民館から公民館長と活動推進員が委員として参画し、地域と学校とのコーディネート役（活動に対する児童や住民への助言、協力者・ボランティアの募集等）を担っている。
- 国府小学校では、「社会に開かれた教育課程」の具現化を目指し、「K ネット」の中に4つの部会（①イベント部会②まなび部会③こころ部会④げんき部会）を設け、教育課程内で実施する学習活動を企画している。（公民館は「イベント部会」に所属）
- 児童が企画作成した「ロゴマーク」を活用して地域内外へ広報活動を行っている。



対 象	小学生，保育園児，保護者，学校関係者，地域住民
経 費	⑤町内会予算 30,000 円（地域主催各種ブース，諸経費） 国府小学校運営協議会事業費用による活動のため，公民館による予算措置はなし
連携先	国府小学校，国府学区町内会，学校関係者，公民館利用者団体・サークル

問 合 せ 先	府中市国府公民館 〒726-0013 府中市高木町 601-1 電話：0847-45-7367 ファクシミリ：0847-45-7367	
----------------------------	---	--

2 事業設定の理由（学習の目的）

- 小中一貫教育とコミュニティ・スクールを導入している府中市では、地域の児童生徒等を「将来の地域の若者」と捉え、地域の課題解決に取り組み続ける地域の若者を育てる取組を展開しようとしており、校区内の公民館として、国府小学校運営協議会（K ネット）の事業に積極的に関わり、協力していくこととした。
- 平成 29 年度から、「公民館まつり」とPTA行事の「読書まつり」、学校行事の「音楽発表会」を一つにまとめ、地域が一緒に取り組める「国府演 JOY 祭」として事業を開始。
- K ネットの基本理念である「地域を愛したくましく生き抜く子供の育成」を具現化するものとして、学校・家庭・地域が一体となって子育てを推進する。

3 事業目標

- 地域の方の話や交流活動を通して、児童に地域の課題を捉えさせる。
- 地域のつながりの希薄化が引き起こす課題について、児童に気付かせる。
- 未来に向けて大切にしていきたい自分たちのまちの良さについて、児童に気付かせる。
- 地域の方と関わることで他者理解を深め、地域とのつながりを大切にする意識を高める。
- たくさんの人と関わることで他者理解を深め、地域参画の意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 学校・町内会と連携する。
- 活動に際しての地域住民の協力者やボランティアの募集をする。

5 留意点

- 地域課題・生活課題（広範な世代による地域住民の交流、伝統文化の継承など）の解決に向けた取組を行っている児童に対して助言を行う場を設定する。
- 子供が主体となるような事業展開を図る。

6 成果

- コミュニティ・スクールの活動を通じて、地域の子供が、大人を地域づくりに巻き込み「地域とともにある学校」を具現化できた。
- 公民館がコミュニティ・スクールに積極的に参画し、多世代にわたる住民の交流の場として機能できた。

7 課題

- 事業のコーディネート役を担う地域人材を継続的に育成（発掘・養成）する必要がある。
- 児童の主体的な取組に加え、地域の大人がさらに主体的に取り組めるフレームを検討し、公民館としての「K ネット」における活動を広げていく必要がある。

8 今後に向けて

- 地域の大人が主体的に取り組む仕組みづくりを行う。
- 活動を通じて学んだ子供たちが青年層になったとき、今度は地域活動や生涯学習・社会教育の枠組みの中で活躍できる環境の整理・長期的なフォローアップができる体制づくりを行う。